

# 損保9条の会あいおい

2019年9月3日 NO 3

栗原 伸夫 (損保9条の会あいおい・共同代表)  
電話 08065659479 E-mail n.koedo@f5.ne.jp  
URL <https://sonpo9jyoioi.blogspot.jp/>  
共同代表 土田 順子 事務局統轄 堤 正昭

## 参院選 改憲勢力の3分の2を打破！ 情勢は新たな局面に

損保9条の会・生保9条の会 合同講演会  
10月26日(土)13:00 王子駅・北とぴあ

### 「戦争化する世界と 非戦の思想」

西谷 修氏

東京外国語大学名誉教授  
立憲デモクラシーの会呼びかけ人



- ★ 西谷修さんのプロフィール、会場のアクセスなど詳しくは、ちらしでご確認ください。
- ★ 終了後、懇親会を予定しております。ぜひご参加をお待ちしております。

### 安倍改憲 NO 全国統一署名(3000万署名)

「損保9条の会あいおい」は、2016年の「安保法制の廃止を求める署名」時の2倍、700筆以上の目標に対して、**794筆**を達成しました。ご協力ありがとうございました。

全国市民アクション経由で国会に提出いたしました。

### 【平和であってこそその損害保険産業】

- ① アジア・太平洋戦争時の「戦争保険」など、戦争に協力する施策を再び繰り返してならない。
- ② 保障機能の発揮、真の被害者救済など「損害保険会社の社会的役割、責任」が実現できている。
- ③ 「人間優先」のもと、従業員が、お客様に感謝され、自信と誇りを持って働くことができている。

### 新たな改憲情勢を迎えて

#### 9条の会が声明

参院選を経て、安倍改憲をめぐる情勢は新たな局面に入りました。2017年5月3日の改憲提言以来、自民党は衆参両院における改憲勢力3分の2という状況に乗じて改憲を強行しようとさまざまな策動を繰り返してきましたが、その後2年にわたり市民の運動とそれを背にした野党の頑張りによって改憲発議はおろか改憲案の憲法審査会への提示すらできませんでした。そして迎えた参院選において、改憲勢力は発議に必要な3分の2を維持することに失敗したのです。

3分の2を阻止した直接の要因は、市民と野党の共闘が、「安倍政権による改憲」反対、安保法制廃止をはじめ13の共通政策を掲げて32の一人区全てで共闘し、奮闘したことです。また、安倍9条改憲NO! 全国市民アクション、九条の会が、3000万署名を掲げ戸別訪問や駅頭、大学門前でのスタンディングなど草の根からの運動を粘り強く続けることで、安倍改憲に反対する国民世論を形成・拡大する上で大きな役割を果たしたことも明らかです。

ところが、安倍首相は、自民党案にこだわらないと強調することで、野党の取り込みをはかり3分の2の回復を目指すなど、あらゆる形で改憲強行をはかろうとしています。(中略)

6年半を越える安倍政治への不信とあきらめから、投票率が50%を割る事態が生まれています。この民主主義の危機を克服し再生するためにも、市民一人一人の草の根からの決起が求められています。参院選で3分の2を阻んだ市民の運動に確信をもち、安倍9条改憲NO!の3000万署名をさらに推進し、広範な人々と共同して草の根から、9条改憲の危険性を訴える宣伝と対話の活動を強めましょう。同時に、どんな口実であろうと自衛隊の有志連合への参加・自衛隊の海外派兵、さらなる軍事力の増強を許さない闘いを、安保法制の全面発動、実質的な9条破壊を許さない闘いとして取り組みましょう。(2019年7月29日)

【五月三日憲法集会】



あいおい  
QRコード



## ～多摩の山間から自由民権の息吹がよみがえる旅～

2018年12月7日（金）は寒くもなく絶好の散策日和。国分寺市ひかり公民館主催による野外講座である。武蔵五日市駅に10時集合。全体で23名の参加、山道を一路深澤家屋敷跡へ。途中休憩をはさみながら、ゆっくりと五日市憲法の源流へ向け歩みを進める。時折、遅い紅葉を思いださせるかのように、朱色の楓であろうか 日の光に照らされキラキラと輝いている。

1時間強歩みを進めると、深澤家屋敷跡の石塔が見え、いよいよ五日市憲法草案と対面かと胸が躍る。屋敷跡の土蔵を新井勝紘さん（1968年当時、憲法草案を発見した東京経済大学教授、色川大吉ゼミに同行した学生、元専修大学文学部教授）の手で開錠。その後を三班に分かれて中へ入る。

締め切った土蔵の中はカビ臭い異臭が鼻を衝く。真っ暗な中、階段を上がると、古びた茶箱、桶、タル、燭台などが置かれている。新井先生曰く、偶然開けた文書箱の中に五日市憲法草案なる原本が見つかったとのこと。それは後になってわかったことで、その瞬間はこれが帝国憲法の素案かと思うほど朽ち果てていて、判読できなかったそうである。



【深澤家屋敷跡の土蔵全景】



【土蔵の内部】

その後、一枚一枚丁寧に読み解く中で、帝国憲法とは全く異なる、204条からなる憲法草案であることが判明。場所の名を取って「五日市憲法草案」名付けたとのこと。付近には映画「五日市物語」のロケ現場の立て看板もあり、土蔵に埋もれた草案が近年に光輝いた面影を想起させる。

五日市憲法は、自由民権思想を大切に、村人や若者らが情熱を傾け作り上げた、まさに民意総和の結実であり、今の憲法に何ら遜色のない出来栄になっている。

では、何故山間の五日市にこのような自由民権思想が育まれていったのか。明治13年の東京横浜毎日新聞に「五日市は東京を距15里西方に在りて一小村落を為し、(略)戸数は三百十戸、人口は千三百四十八なり。云々と紹介されている。

五日市は東京のはずれではなく、むしろ交通の要衝地、毎月5の日（5、15、25の日）市がたち、炭が中心の物流の拠点として栄えた。また、秋川～多摩川～東京湾～深川木場と筏を使って江戸の火事の復興用木材の貴重な供給源となっていた。さらに五日市から八王子、町田を経由して横浜まで、絹の売買も行い、大きな富を築いた。その際、人的、文化的交流を深め西洋文化に接することができる環境にあった。

そこには東京から入手できる新刊で、深澤文庫なる私設図書館まで設置され、自由民権思想を学ぶ土地の有力者、諸氏、村人が集い、五日市学芸講談会（今で云う、討論会、懇親会、読書会）なるものが結成され活発に開かれていた。

深澤権八（奥多摩の材木商で土地の名士）は自らの墓に「権八深澤」と西洋風に名を刻んでいる。

江戸の末期から明治の始めに、それほど西洋文化に慣れ親しんでいたのである。（深澤家の石塔）



全204条から成る「五日市憲法草案」（現行の日本国憲法は全103条）の一番の特徴は、国民の権利の保障が明記されていることである。1889年に発布された「大日本帝国憲法、明治憲法」は全76条で、日本の主権を有するのは天皇であり、国民は臣民で、すなわち天皇の臣下（天皇に仕える者）と規定されている。

「国民主権」「基本的人権」といった考え方は、明治憲法には全くなく「五日市憲法草案」の民主的かつ先駆的内容は、1947年5月3日施行の「日本国憲法」に歴史の伏流となり、受け継がれ結実していくのである。現行の日本国憲法には「平和主義」を加え、「戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認」が規定されていく。

清水 正義(元千代田火災・三多摩健康友の会)